

## 地理的表示における品質と場所のディスコース:コンヴェンション理論の日本茶への応用

### 要旨

日本茶は、生産工程、品種、産地の環境・文化的な要因などによって伝統的に差別化されてきたが、場所や環境に関する有効な要素がお茶の活用に価値を付加する点がますます強調されてきている。つまり、地域特有の農業は、より持続可能な方法で食品を供給すると言える。その取り組みは、制度的に登録が可能である。茶の産地は、地理的表示(GI)、商標、有機認証、地域遺産登録のような複数の制度に申請してきた。ゆえに、本研究では、これらの品質の要素が生産者や産地に及ぼす影響を調査、品質がディスコースや実践に対して多層的であることを議論した。

分析のために、本研究は製品の品質を決定する生産者や関連するアクターを理解するフランスの経済社会学に源を発するコンヴェンション理論を適用した。本研究では、日本茶のGIの全ての事例である4種類の茶のタイプを調査した。GIの有効な登録は、包摂や排除、登録プロセスの期間、製品基準の合意可能性といった多様なコンヴェンションの要素に依存する。

日本茶のGIへの登録は、有機認証、世界農業遺産(GIAHS)のものなど環境への優しさや、伝統に関連した表示のような環境や他の品質の登録と組み合わせることも可能である。